

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年2月25日
札幌市立光陽中学校

1. 学校教育目標

未来を築く豊かな人間性の育成をめざして 高い知性を育てる 豊かな心情を育てる 健康な身体を育てる ねばり強い実践力を育てる
--

2. 今年度の重点推進項目

自己肯定感を高め、授業と家庭学習の充実につなげる 自ら行動する生徒の育成

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

※A…「十分である」、B…「おおむね十分である」、C…「不十分である」

A・B・Cは学校評価アンケートから「そう思う」「だいたいそう思う」の合計%から算出。

A…80%以上 B…60%以上 C…60%未満としている。

① 学校教育目標（めざす生徒像）について

分野・領域	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
よく考えて学ぶ生徒	生徒はどの授業にも意欲的に取り組んでいる。	A 84.2→86.2	・本校の大きな課題の1つである自ら進んで学習に取り組む生徒の割合が増えた。 ・今後も引き続き手帳指導を行ったり、できたことを褒めたりするなどして、生徒の意欲を引き出していきたい。 ・時間を守ることの項目がやや下がりBになった。「めざす教師像」の評価も下がっているため、教師みずからが襟を正し模範となる姿を見せることが必要と考える。	A	A
	生徒は自ら進んで毎日の家庭学習に取り組んでいる。	C 45.1→50.3			
明るく素直な生徒	生徒はいつでも、誰に対しても明るく挨拶をしている。	A 88.7→90.1			
	生徒は場に応じた正しい言葉づかいができる。	A 93.9→90.3			
丈夫で強い心の生徒	生徒は食事や睡眠に気を配り、健康的な生活を送っている。	B 74.7→68.2			
	生徒はいじめや嫌がらせをせず、友達の良さを理解しようと努めている。	A 95.2→92.9			
ねばり強くやり抜く生徒	生徒は時間を守り、規則正しい生活をしている。	B 80.9→77.3			
	生徒はきまり・心得を意識して生活している。	A 92.0→88.9			
	生徒は行事に一生懸命に取り組んでいる。	A 98.2→97.7			
学校関係者評価委員会による意見等		・時間を守る意識が薄れているのは注意すべきである。 ・高校入試や大学入学共通テストでも考えさせる問題が増えていると聞く。なぜ時間を守る必要があるのかを考えさせて行動させることで、何らかの変化を期待できるものとする。 ・ほとんどの項目は高い評価であるので、これまでの学校の実践を続けていただきたい。			

② 学校教育目標（めざす教師像）について

分野・領域	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
楽しくよくわかる授業を進めようとする教師	十分な準備をして、わかる授業をしている。	A 100→100	・いずれも項目も肯定的な回答の割合が高くなっている。 ・時間を守ることの項目が下がりBとなった。大きく下がっていること、また「めざす生徒像」においても同じ項目が下がっていること踏まえ、より一層、教職員全体で気を付けなければならない。 ・他の項目についても油断することなく、管理職のリーダーシップのもと更なる改善を図っていききたい。	A	A
	教育に携わる者として研修に励み、教員としての資質向上に努めている。	A 100→89.4			
優しい温かさの中に毅然とした姿勢で支援しようとする教師	適切な服装、適切な言葉づかいを心がけている。	A 100→94.7			
	時間を守り、けじめある行動をとっている。	B 82.4→68.4			
人間的なふれあいを通して生徒理解に努力する教師	いつでも、明るくあいさつをしている。	A 94.1→94.7			
	一人一人の生徒理解に努め、一人一人の状況に対応している。	A 100→100			
	生徒と家族と職場の仲間を大切にしている。	A 100→89.4			
	報告・連絡・相談を心がけ、明るくチームワークの良い職場づくりをしている。	A 100→89.4			
学校関係者評価委員会による意見等		・先生方が授業等を終える時間がルーズになりやすいとのことなので、そこに気をつけながら引き続き取り組んでいただきたい。 ・生徒は落ち着いた学校生活を過ごせていると思う。			

③ 今年度の重点推進項目について

分野・領域	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
自己肯定感を高め、授業と家庭学習の充実につなげる	授業ならびに家庭学習に関するアンケートのまとめ (項目 1, 2 および授業評価)	B 79.4→77.9	・ どちらの項目もほぼ横ばいであるため、現在の取組を続けていく。	A	A
自ら行動する生徒の育成	自ら行動し、実践する生徒	B 68.2→67.8			
学校関係者評価委員会による意見等		・ 勉強が分からない生徒がとても多いと感じている。 ・ 勉強を頑張りたい気持ちがあっても分からないことが多いために教室へ入りづらくなっている生徒や自分が分からないことを言い出せない生徒がいるようだ。 ・ 不登校生徒への対応強化と学力向上のための取組をお願いしたい。			

4. その他、委員会からの意見等

・以前と比べ、自治を意識した活動が薄れてきているように感じる。 ・学習ができなくても、他の場面で活躍する機会を設けたり、生徒自らがそのような場面を考える仕掛けを考えたりしていただきたい。 ・次年度から、学校関係者評価委員会の開催を年1回としてよい。
--